ペレニアルライグラス（PR）について

近年、釧路管内では採草地や放牧地にPRをは種する事例が増えています。また、草地更新の際にオーチャードグラスと混播し、年3回収穫する農家も出てきました。

しかし、は種をしても冬枯れがひどく、なかなか定着しないなどリスクもあります。

そこでペレニアルライグラス導入に向け、その特徴と留意点について紹介します。

写真 1　PR は葉に光沢があり、草丈は出穂始めで 50 ～ 60 ㎝になるイネ科の多年生牧草

1．PRの特徴

PRは再生力に優れ、競合力があります。特に秋の生育が良く、放牧利用にも適しています。また、糖含量が高く嗜好性は良好、消化性にも優れています。

しかし耐寒性が低いため、土壌凍結地帯である釧路管内では、越冬性が課題となっています。（表1）

表1　PR の特徴と他草種との比較

牧草の栄養価(%)

草種	TDN	CP	NDF
ペレニアルライグラス(1番草・出穂期)	69.9	10.3	56.4
チモシー(1番草・出穂期)	67.6	10.0	61.2
オーチャードグラス(1番草・出穂期)	68.7	11.8	59.0

日本標準飼料成分表(2009)より

環境ストレス耐性と発芽日数

草種	耐寒性	耐暑性	耐乾性	耐湿性	酸性土壌耐性	発芽日数
ペレニアルライグラス	弱	弱	弱	中	中	5~10
チモシー	強	弱	弱	強	中	5~8
オーチャードグラス	中	中	強	弱	中	7~12

農林水産省　草地管理指標より

2．PR栽培における留意点

PRが良好に越冬するためには、越冬前に①草丈10 cm 以上、②分げつ茎が3～4本まで生長している、必要があります（イネ科牧草全般も同様）。この条件を満たすため釧路中西部地域は、8月中旬までには種を行う必要があります。

3．は種が遅れた場合…

もし8月中旬までには種ができない場合の対応として、フロストシーディング（以下FS）があります。FSとは、日平均気温が5度を下回る11月中旬以降から、根雪前までの土壌凍結始めには種し、種子のまま越冬させ、翌春の融雪直後に発芽・定着させる方法です。

慣行は種に比べて発芽後の個体数がやや劣る傾向にあるので、は種量は慣行より3割程度増やします。PRの追播ならば2.6 kg／10 aになります。

FSはあくまでも最終手段です。できるだけ、8月中旬までには種するよう心がけましょう。

写真２　FS での発芽

4．事例紹介

釧路管内M農場は、糖含量の高さと、シバムギの抑圧に期待し、3回刈り体系であったオーチャードグラス主体草地に、混播する形でPRを導入しました。結果、シバムギは制圧されました。また、サイレージの発酵品質と栄養価が向上し、食い込みも増加しました。その結果、乳量は1頭あたり約2 kg増加しました（図1）。

一方、乾きにくいためにサイレージが調製しにくい、繊維含量が低くなるので軟便になる、などの問題もありました。

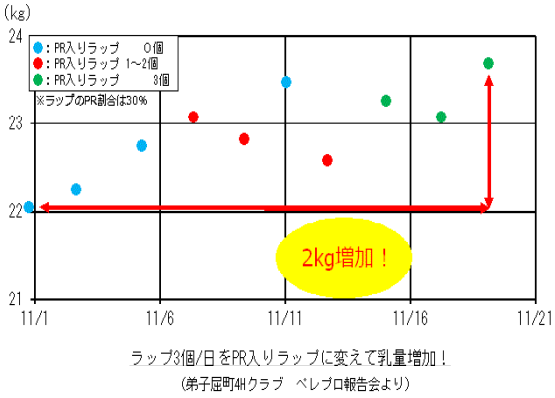

図1　PR 入りラップ給与による乳量変化

5．終わりに

PRの利用方法については、まだ課題が残っていますが、活用できればとても魅力的な牧草です。導入する際は、普及センターにご相談ください。

（平成30年5月作成）

釧路農業改良普及センター　釧路中西部支所